

日本語パートナーズ台湾派遣開始 一期5名が到着

日本台湾交流協会台北事務所
日本語パートナーズ調整員 白田直子

●はじめに

2017年2月13日、日本語パートナーズ5名が台湾に到着した。台湾で初めてとなる今回の5名は、6月末までの4ヵ月半、各地の高校で日本語授業のティーチングアシスタントとして日本語教員および生徒たちと活動する。パートナーズの受入校は北からそれぞれ、基隆市・国立基隆女子高校、台北市・成功高校、新北市・新北高校、台中市・豊原高校、高雄市・国立鳳新高校。同5校では、第二外国語学習として日本語の授業を開講しており、日本語パートナーズは文字どおり教師や生徒のパートナーとして、授業およびその他活動を支援する。

日本語パートナーズ台湾派遣実現の経緯

2016年11月30日、日本台湾交流協会と亜東関係協会との間で、日台双方の日本語及び中国語教育の交流・協力を促進し、言語教育の水準を向上させ、互いの歴史・文化に対する理解及び友好親善を深めることを目的とした「公益財団法人交流協会と亜東関係協会との間の言語教育の交流と協力に関する覚書」が署名された。本覚書署名を受け、日本台湾交流協会は、独立行政法人国際交流基金から日本語パートナーズ派遣事業の一部を受託し、台湾教育部および亜東関係協会から全面的な協力を得て、同事業を実施することとなった。

日本語パートナーズ派遣事業

日本語パートナーズの派遣は、国際交流基金ア

ジアセンターが、2014年度から主にASEAN諸国に向けて実施している事業で、これまでインドネシアやタイを中心に多くのパートナーズを送り出している(表1参照)。台湾への派遣は、日本台湾交流協会が現地での受入れの連絡調整を担当することとなり、2016年度からスタートした。現在は5名だが、今後はより多くのパートナーズ派遣を予定している。アジア諸国におけるパートナーズの派遣先は中等教育機関あるいは高等教育機関で、期間は派遣年や地域でそれぞれ異なるが約5~10ヵ月間、任地に滞在する。また、派遣前には現地での活動や生活に必要な知識を習得するため、約1ヵ月の集中した研修プログラムの受講が必須となっている。パートナーズへの応募は、専門的な知識を持ち合わせていなくても、これまでに培ってきた経験や特技、そして日本文化を伝えようという熱意があれば、誰でもチャレンジすることが可能である。

表1 日本語パートナーズ派遣実績

派遣先	2014年	2015年	2016年	計
タイ	29	52	60	141
フィリピン	5	9	10	24
インドネシア	48	74	146	268
ベトナム	10	12	26	48
マレーシア	8	20	30	58
ミャンマー		1	4	5
シンガポール		1	1	2
ブルネイ		1	1	2
カンボジア			1	1
ラオス			1	1
台湾			5	5
計	100	170	285	555

資料元：日本語パートナーズホームページ、<http://jfac.jp/partners/overview/achievements/>。

到着後オリエンテーションの様子

パートナーズ5名は台湾到着翌日から、日本台湾交流協会で開催されたオリエンテーションに参加した。1日目には、当所沼田幹夫代表・浜田隆部長と面談した。沼田代表から台湾の人々の優しさについての話を聞き、パートナーズもこれまでの台湾との関わりなどを語るなど、和やかな雰囲気の中か懇談が続いた。引き続きオリエンテーションでは、日本語専門家2名とともに、高校における授業やその他の活動について、実践的な教務ブリーフィングなどが行なわれた。台湾一期の5名は、タイやベトナムでパートナーズとして活躍した経験者であ



沼田幹夫代表・浜田隆部長との懇談

るため、これまでの実体験を共有し合うなどして、活発な議論が進められていたのが印象的であった。

また、オリエンテーション2日目には、亜東関係協会および台湾教育部を表敬訪問した。亜東関係協会では、洪臨楮文教組組長・郭俐逸科員と、教育部では、黄冠超副参事・陳立穎科長とそれぞれ面談し、パートナーズは自分の出身地や台湾での活動に向けた抱負などを語った。

午後には、パートナーズ5名が、国際交流基金安藤裕康理事長、下山雅也アジアセンター部長と懇談し、安藤理事長からは国際交流基金と台湾教育部との交流の背景をご紹介いただいたほか、安藤理事長・下山部長からパートナーズに対して激励の言葉が伝えられた。



安藤理事長・下山部長との懇談



亜東関係協会にて



台湾教育部にて

🤝 日本語パートナーズ歓迎レセプション

そして、同日夜、当所沼田代表主催による日本語パートナーズ台湾一期の歓迎レセプションが開かれた。レセプションには、安藤理事長、台湾教育部林騰蛟常務次長、同部国民及学前教育署邱乾国署長、亜東関係協会蔡明耀秘書長をはじめ、パートナーズ受入校の校長先生や教員、また日本語教育関係者らが貴賓として参加され、代表として安藤理事長、林常務次長からそれぞれ挨拶をいただいた。続いてパートナーズが、派遣前研修で覚えたばかりの中国語で初々しい自己紹介を披露した。当所沼田幹夫代表による乾杯の挨拶で歓談が

スタートし、各受入校とパートナーズは初めて顔を合わせ、日本語教員などを通じて今後の活動に向けて積極的に言葉を交わした。

🤝 パートナーズ、各自任地へ出発

2月16日、パートナーズは宿泊先のホテルからそれぞれの任地へと出発した。パートナーズは皆、日本から持ってきた文化紹介の小物や本、そして期待と希望がいっぱいに詰まった大きなスーツケースを抱え、それぞれ笑顔で任地へ旅立っていった。日本台湾交流協会は、今後も台湾の高校でのパートナーズの活動を側面的に支援していくとともに、その様子を日本に発信していきたい。



安藤裕康国際交流基金理事長



林騰蛟教育部常務次長



沼田幹夫代表乾杯のあいさつ



各受入校の校長先生・教員の方々とパートナーズ